

医療ルネサンス

No.5777



大腸がんの転移

3

5

重粒子線照射で再発抑制

北九州市の動物病院長、中村完治さん(70)は10年前、便秘をきっかけに大腸内視鏡検査を受けた。その結果、大腸がんの一つ、「直腸がん」が見つかった。

転移はなく、県内の病院で、患部を切った前後をつなぐ手術を受けた。それで治ったと思っていたが、4年後、定期的に受けていた検査で、手術で接合した部位にがんの再発が見つかった。手術後に抗がん剤を2年も服用していただけに、大きなショックを受けた。

直腸がある骨盤内には、前立腺や膀胱、太い血管や神経が集中しており、直腸がんがここで再発すると、手術ができたとしても様々な後遺症が残りやすい。

中村さんは、福岡市内の病院で手術を受けた。人工肛門は避けられなかったが、半日がかりの手術で幸いに尿道は切らずに済ん



直腸がんが再発して手術できず、重粒子線治療を受けた中村さん。今も獣医師として犬や猫の診療を続ける(北九州市で)

だ。その3か月後には、趣味のゴルフも再開していた。

今度こそ治ったと信じていたが、翌年、骨盤内にはがんが見つかった。前回の手術でがんが散り、転移したらしい。今度は手術で取るのには不可能で、放射線治療しか方法がなかった。

しかし、考えた末に中村さんは放射線治療を断った。効果が限られ、1年で再発する可能性が高いと言われたからだ。「自分の命

だから自分で選ぶ」。中村さんは、インターネットで知った「重粒子線治療」に命を懸けることにした。

高エネルギーの炭素イオン(重粒子)を、がん細胞にピンポイント照射する。従来の放射線治療に比べ、強力に、周囲の組織のダメージを少なく治療できる。ただし、保険では認められてお

らず、自己負担は3〜4万円かかる。実施できるのは現在、全国4施設のみだ。中村さんは、治療実績が

最も多い放射線医学総合研究所・重粒子医学センター病院(千葉市稲毛区)に1か月間入院し、16回の照射を受けた。痛みは全く感じない。治療から5年たった現在、がんの痕跡は残っているが、がん細胞は死滅した状態を保っている。

中村さんは「重粒子線治療を受けなかったら、もう寿命だったかもしれない。今は朝起きて1日元気に動ければ、ありがたいなと感謝する毎日」と話す。

同病院治療室長の山田滋さんによると、同病院では2001年以来、直腸がんが再発した419人の患者を治療した。最近の成績では、91%は5年間再発が抑えられる。他臓器転移で亡くなる患者もいるため、5年生存率は53%だが、放射線治療の10%以下、手術の40%を上回る。

山田さんは「最近はこの治療への理解が進み、手術できないと判断した外科医から、治療を依頼される例が増えている」と言う。